

当院血液浄化センターにおける禁煙支援の構築

新城 尚美¹⁾ 宮城 さちえ¹⁾ 永吉 奈央子¹⁾ 徳山 清之¹⁾

【背景と目的】

維持透析患者では心血管病や感染症のリスクが高いことから、禁煙支援の役割は大きい。しかし通常の禁煙外来で配布されている禁煙の資料には透析患者に使用するには不適切な事項も含まれていて維持透析者にとって適切で、より受診しやすい禁煙外来が必要である。

そこで当院では、血液浄化センターにて禁煙支援システムを構築し、透析患者向けの禁煙資料を作成したので報告した。また当院透析患者の喫煙状況調査や禁煙支援実績もあわせ報告した。

【禁煙支援システムの構築】

1. 喫煙状況のデータベース化

透析導入及び転入時に行う透析オリエンテーションに喫煙調査を追加し、早期に喫煙状況を把握出来るようにデータベース化した。(図1)

2. 血液浄化センター内の禁煙外来の設置

従来から当院では禁煙外来を「内科外来」で行っていたため、血液浄化センタースタッフが禁煙支援に関わる事はほとんどなかった。今回、透析患者を対象として血液浄化センター内で初回から卒煙まで禁煙担当看護師が支援できるようにした。(図2)

3. 禁煙支援パンフレットの作成

血液浄化センター内で利用しうる禁煙のパフレット3編を作成した。3編とは、「禁煙外来案内編」「チャンピックス編」「ニコチンパッチ編」である。(図3)

内科での禁煙外来で用いている禁煙資料との相違点を以下に示す。

「チャンピックスの内服スケジュールについて」

通常使用では1日目～3日目は0.5mgを1日1錠、4日目より0.5mgを1日2錠、8日目以降は1mgを1日2錠と増量になるが、透析患者では0.

[illegible]

図 1 禁煙情報データベース

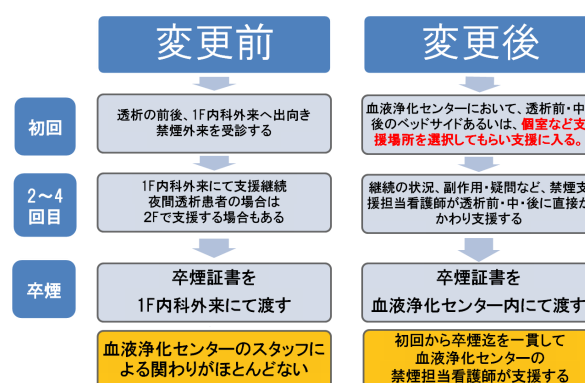


図2 透析患者を対象とした禁煙支援



図3 禁煙支援パンフレット

1) 医療法人 清心会 徳山クリニック
附属血液浄化センター

責任者連絡先：新城尚美
住所：沖縄県浦添市牧港2丁目46番12-102
医療法人清心会 徳山クリニック(〒901-2131)
電話 098-942-1001
E-mail : s-toku@tokuyama.or.jp

5 mgを1日1錠としていることから、内服スケジュールを変更した。

「保険診療での禁煙外来費用について」

透析患者は一般の内科外来患者と異なり、特定疾病療養受給資格や更生医療費などを受給していることが多く、禁煙外来に係る費用の支払額が一定ではないために医療費記載を削除し、そのつどクラークから説明するようにした。

更にほとんどの患者は医療費助成の対象で医療費の払い戻しが受けられるため、その情報を記載した。(図4)

「吸いたくなったときの代替行動について」

透析患者では水分管理やカリウム制限、塩分の取り過ぎなどへの注意が重要である。一般用の禁煙外来資料では、吸いたくなった時の代替行動として「熱いお茶や冷たい水を飲む、氷を口に含む、干し昆布や野菜スティックを食べる」などの項目があったが、透析患者には不適切であり削除した。

4. 透析来訪時の状況確認および報告システムの構築

週3回透析に通って来られる際に次回の禁煙外来受診を待たずに体重の変化の確認や治療薬の使用状況、副作用などを確認する事ができるため、その都度禁煙担当医師へ報告し対応するシステムとした。なお禁煙すると食欲が増し、食事摂取量や間食が増え体重が増加することがある。その場合に透析患者はドライウエイトの調整が必要になることから、このシステムは重要である。

【喫煙状況調査】

対象症例：

当院維持透析患者173名

男性96名 女性77名(腹膜透析患者含む)

平均年齢61.3歳±13歳

平均透析歴10.1年±7.7年

方法：

平成23年7月7日から7月16日までの期間、間きとりにて当院透析患者の喫煙状況調査を実施した。項目は、喫煙の有無、1日の喫煙本数と年数、禁煙希望やその方法などとした。(図5)

調査結果：

非喫煙者は149名で、過去に喫煙歴ありが56名であった。現在喫煙者は24名で、禁煙希望者が17名であった(図6)。

禁煙希望者17名の内訳は、「いずれは禁煙したいと思っている」7名、「自分の方法で禁煙する」3名、「禁煙外来を希望する」7名(その内4名は既に禁煙治療を開始)であった(図7)。

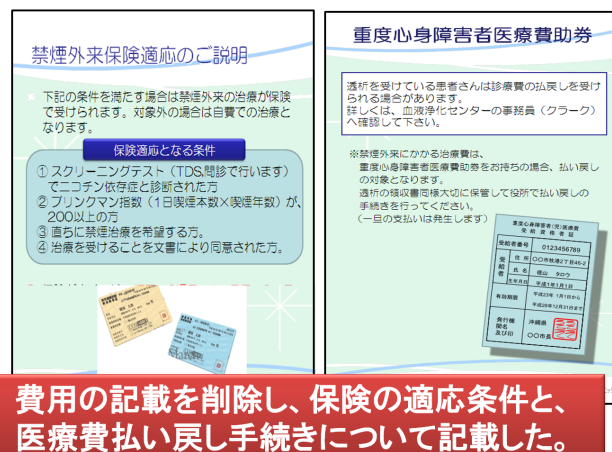


図4 医療費助成対象情報を記載

図5 喫煙状況調査

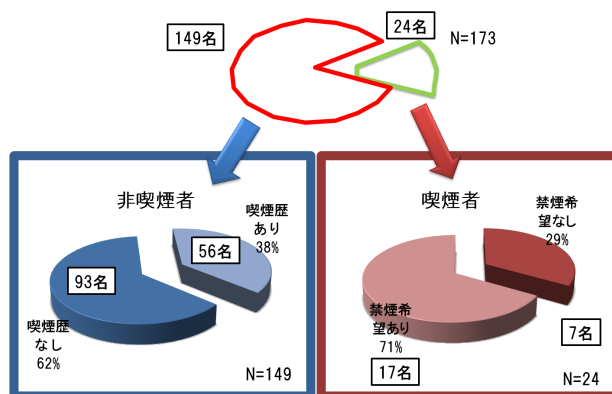


図6 透析患者の喫煙状況

【禁煙支援実績】

前述の喫煙状況調査で、まだ禁煙治療を開始していなかった人を含め、禁煙外来受診希望であった7名全員が禁煙治療を開始した。治療薬剤はバレニクリンが5名、バレニクリンからニコチンパッチへ変更が2名であった。

(図7)

治療開始した7名の経過は、平成24年2月1日時点で禁煙成功が2名、治療継続中が1名、禁煙に至らなかったが4名であった。更に喫煙状況調査で「禁煙する気はない」と答えていた1名が3ヵ月後、禁煙治療を開始した。

血液浄化センターでの禁煙支援の実施については、「内科外来まで行かなくていいので気持ちが楽」「待ち時間がなくて良い」などの声が聞かれ、受診し易い環境作りができたことが確認された。禁煙した患者からは「咳や痰が減った」「息苦しさなくなった」「ご飯が美味しい」などの喜びの声が聞かれた。

【考 察】

喫煙状況のデータベース化、血液浄化センター内の禁煙外来の設置および透析患者問診票と禁煙支援パンフレットの作成、透析来訪時の状況確認および報告システムの構築について報告した。これらのシステム構築により、透析患者の喫煙状況を迅速に把握することができるようになり、各スタッフから患者の情報が禁煙支援担当者に集まり、担当医師との連携もスムーズに行えるようになったことは大きなメリットと考える(図8)。透析患者にとってより身近な存在である透析スタッフが、これまで以上に積極的に禁煙に介入する事で、透析患者にとっての禁煙のきっかけ作りにもつながったと思われる。

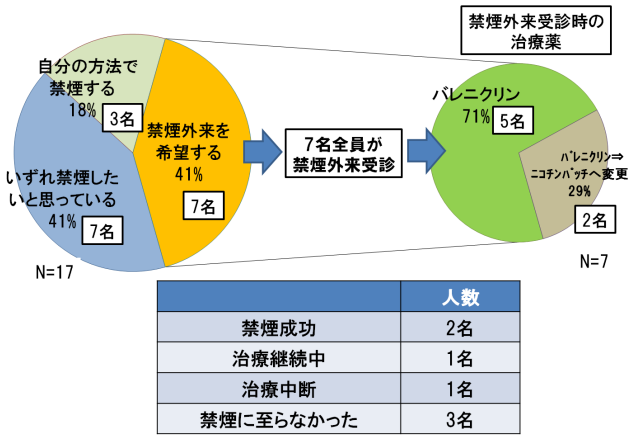


図7 禁煙希望者の内訳

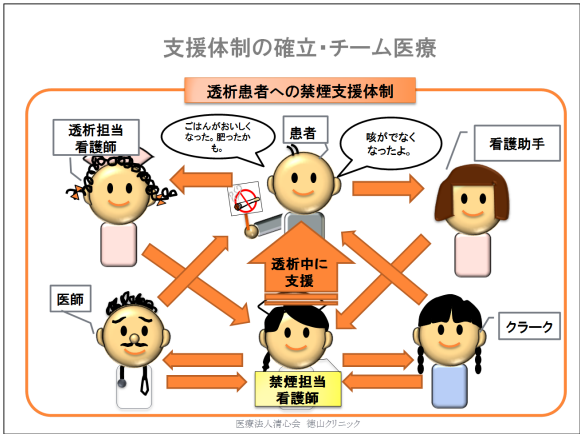


図8 支援体制の確立・チーム医療

【結 語】

当院の外来血液浄化センターにおける禁煙支援システムの構築と、当院透析患者の喫煙状況調査、禁煙支援実績について報告した。これらの取り組みによって、維持透析患者にとってより受診しやすい禁煙外来となっていると考える。

花便り

— 2012. 03 (2) —

3月中。レンギョウ（モクレン科）の花が咲きだしました。蕾が黄色く観えます。しかし来週始めの冷え込みで、開花が遅れそうです。

漢方では果実を「連翹（れんぎょう）」と言い、消炎排膿、皮膚疾患（ニキビなど）の改善を目的に、鼻炎、蓄膿などに用いる荊芥連翹などに配合されます。

写真下は支那レンギョウです。レンギョウ、チョウセンレンギョウが園には有ります。

アズが2部咲きになり、コブシが数えられる程度、白い花卉を出してきました。熊本大学の卒業式は3月23日です。薬学部ではエドヒガンザクラが満開かもしれません。

(写真と文)
熊本大学薬学部 薬用資源エコフロンティアセンター准教授 矢原正治

